

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.194

2018年9月18日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## コウノトリの野生復帰を考えよう

食・環境教育部会  
授業研究会

食・環境教育部会が小野市の小学校において授業研究会をおこないました。「生物どうしのつながり」の単元（6年生理科）で「コウノトリの野生復帰について考え、自然環境保全に対して意欲を持つ」という内容でした。授業校では、研修テーマを【一人学びをもとに、みんな学びの充実を図る授業づくり～主体的、対話的に学びを深める授業改善をめざして～】と設定して、学習の流れ「めあて→一人学び→みんな学び（ペア・グループ・全体）→まとめ→ふり返り」をどの授業にも取り入れるなど、全校的にとりくまれています。



授業は、はじめに事前の調べ学習をもとにコウノトリについて知っていることを子どもたちが発表し、本時のめあてを全体で共有していきました。次に、兵庫県ですめられているコウノトリの野生復帰の概要について、子どもたちは、グラフなどの補助資料の提示を受けながら確認しました。その際、「野生と人工飼育の違い」について、ペアトークを通して、学びを深めていきました。そして、県教委発行の環境教育副読本『地球はたからもの』のワークシート「いのちのピラミッド」を用いて食物連鎖についても考えました。イネの害虫を農薬で駆除していくことで、人間にとっては米の増産につながる一方、水田の生態系が崩れ、コウノトリの絶滅につながってしまった事実をふまえて、最後には「コウノトリが棲むことができる環境は、私たち人間にとってもよい環境である」と感じ取ることができました。

授業後の研究会では、参観者から「難しい内容であったが、子どもたちは興味・関心をもってとりくんでいた」「人の話をしっかりと聞いて発表するなど、子どもたちどうしのコミュニケーションがよくとれている」「授業者の子どもたちへのアドバイス（考えるためのヒント）のタイミングがよかった」といった子どもの姿についての意見が出されました。

協力研究所員からは「学習課題を明確にさせるためには、本物を見せるという直接（間接）体験が大事になってくる」「一人学びを充実させるためには、自分自身の思考を可視化させることが重要である。今回



のようなワークシートは一人学びを支える重要なツールになる」「楽で便利な世の中になっているが、やはり農薬も食品添加物も生き物にとってよくない。手間暇をかけることも場合によっては大切である」という話がありました。

今後も兵庫教育文化研究所食・環境教育部会では、子どもたちを中心にすえた「わかる授業・楽しい学校づくり」をめざして研究を続けていきます。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)